

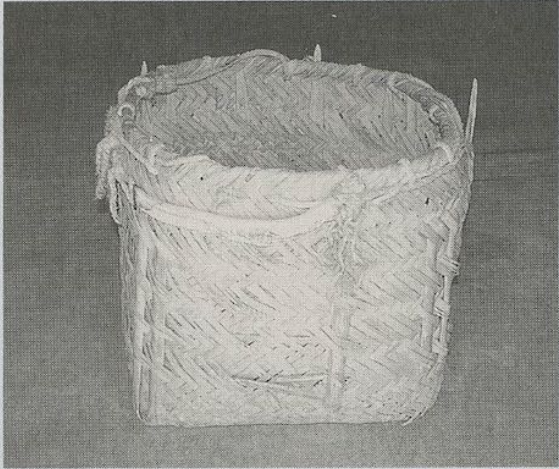
# とさとふる 資料紹介

＝⑧④＝

## 収集資料紹介ノート ーモノに歴史ありー

### (三) 桑摘籠かたと桑籠

蚕のえさとなる桑の葉は、摘み取ると小型の籠に入れられました。これが「桑摘籠」です。「桑摘籠」は腰につけたり肩に掛けて使用しました。



▲桑籠

そして、その籠がいつぱいになると大型の籠に移し替えられ

ました。それが「桑籠」(写真)です。「桑籠」には、背負うための背負いひもが取り付けられています。

どちらの籠も多くは竹製で、編み方にはいくつ種類があります。どこの養蚕農家でも、これらの籠をいくつか持っており、かつては家族総出の桑摘みに利用したものでした。

今回は、次の方から貴重な資料を寄贈いただきました。ありがとうございました。

(平成十年五月分)

○地固め用具など二十一点

(佐光三喜造さん／太田町)

○ガンガン箱

(佐光篤さん／太田町)

○イズミなど十点

(小島敏博さん／坂祝町)

○回転ゾクなど三十三点

(森善一さん／伊深町)

○番傘など二十六点

(石原甲子夫さん／蜂屋町)

○手回し式発電機

(齋藤基生さん／多治見市)

○絹羽織など十三点

(兼松豊志さん／本郷町)

博物館建設のため、現在いろいろな資料を収集しています。文化課(文化会館内／内線四〇八)まで情報をお寄せください。